飼料作物
雪印改良種 解説

雪印紫丸かぶ

上野幌育種場

一 改良目的＝多收、貯藏力の增大

かぶは飼料用根菜の代表的もので、家畜の嗜好が大で、栽培容易、生育期間短くしかも多收であるなど幾多の優れた点を具えており、家畜飼育者は多少の差こそあれほとんどが栽培しておる極めて重要な作物である。そこで弊場ではさらに多收でしかも貯藏力のある品種の育成を企図し、飼料用かぶの代表品種であるパープルトップを材料として雪印改良紫丸かぶを作出した。

二 育成經過

北欧産のパープルトップを材料として昭和二十年より、多收、貯藏力の大（肉質堅密、乾物量多いもの）を目標として、まず多收型として円型厚肉（從来の薄肉扁平のいわゆるカブラ型を排し）の現象型（Phe-no type）選抜を行い、さらに長期貯藏を行つて貯藏性を検し、これら選抜個体について系統集団淘汰（Pedigree mass selection）を繰返し、爾後集団淘汰（Mass selection）を（現在も継続中）行つて育成したものである。

三 特性概要

特性概要は次表のごとくであるが、特に一般市販の紫かぶに比して初期生育が若干遅く、從つて生育日数は九〇日程度の幾分長きを要する（このことは肉質堅密、ひいては乾物量多く貯藏性の大きなことに関係するものと思われる）のと食用としては軟かみがないことである。

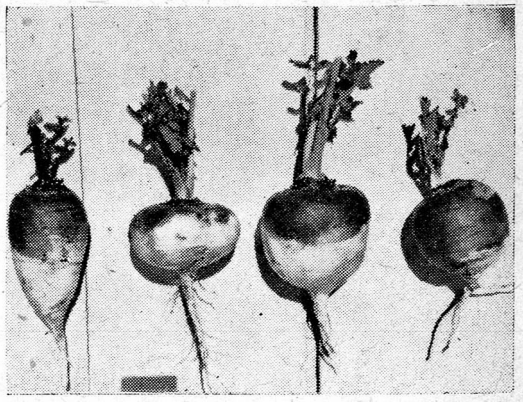
四 利用上の注意

㈠ 寒冷地においてはグリントップ系かぶ（下総、小岩井かぶなど）よりも生育日数短く多收である。

㈡ 貯藏力は北海道においては地下貯藏庫、屋外窖で翌春五月末から六月始めの青草期まで十分貯えられる。

㈢ 乾物量は一般に市販（特に食用種）のものに比して大である。即ち飼料成分割合が高い。

以上の諸点から考慮して寒冷な東北、北海道は勿論府県高冷地の春夏秋作、また温暖地の秋冷期栽培に好適する多收、貯藏性のかぶとして前後作、裏作などの集約輪作に加味栽培して有利である。



紫丸かぶ（普通種）
雪印改良紫丸かぶ
蔬菜用紫（か）ぶ
パープルトップロングレッド

雪印改良紫丸かぶ特性概要

区分 ＼ 品種別	昭和25年度 雪印改良紫丸かぶ	昭和25年度 丁抹輸入パープルトップ	昭和24年度 雪印改良紫丸かぶ	昭和24年度 在来種紫かぶ	昭和24年度 グリントップ小岩井かぶ
播種期	八・二一	八・二一	八・四	八・四	八・四
発芽期	八・一七	八・一七	八・二一	八・一〇	八・一〇
収穫期	一〇・六	一〇・六	一〇・二一	一〇・二一	一〇・二一
特性調査 茎葉 姿勢	直立	直立	直立	直立	直立
特性調査 茎葉 葉色	白緑	白緑	白緑	白緑	白緑
特性調査 菜根 根形（写真参照）（地上部）	円型	扁球	円型	扁球	円型
特性調査 菜根 皮色（地上部）	紫	紫または白	紫	紫	緑
特性調査 菜根 肉色	白	白	白	白	稍黄白
特性調査 菜根 肉質（貯藏力）	稍堅密（大）	軟（中）	稍堅密（大）	軟（中）	稍堅密（大）
特性調査 菜根 大根蛆の被害	少	中	少	少	多
個体調査 総重	二七・六 匁	二九・六	—	—	—
個体調査 根重	二九・五 匁	二〇八・三	二三九・〇	二七・〇	二五・〇
個体調査 根長	一〇・四 寸	九・七	五・八	四・九	四・八
個体調査 根周	一一・七 寸	一三・八	一一・五	一〇・二	一〇・六
個体調査 生葉数	一三・〇 枚	一三・九	一三・〇	中	多
反当収量（換算） 総重	一四五二、〇五八 貫	一六五六、一〇八	—	—	—
反当収量（換算） 根重	一九八二、〇八五 貫	一八八〇、九四九	一四三四、四〇〇	一三三〇、六〇〇	一一八六、八〇〇
反当収量（換算） 根重比率	一〇〇 %	九四	一〇〇	九一	八三

備考 1 畦幅一・七尺、株間〇・七尺の一本立。
2 施肥料反当硫安五・〇貫、過石七・〇貫、硫加三・〇貫。